平成２４年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） 090	提案機関名	かながわ西湘農業協同組合

要望問題名　梅のかいよう病防除について

要望問題の内容　【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】

従来の防除体系では、梅干用品種　十郎でのかいよう病の発生が多い状況である。かいよう病被害果実は規格外集荷となることから、生産者への手取り減少へとつながっている。

かいよう病の防除体系の確立をお願いしたい。また、防除改善点があれば、指導をお願いしたい。

解決希望年限	①1年以内　②2～3年以内　③4～5年以内　④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター　②畜産技術所　③水産技術センター ④自然環境保全センター
備　考	**従来の常温貯蔵庫の利用のためにもね根府川分室での実施が望まれる。**

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	**担当部所**	農業環境研究部

対応区分	①実施　②実施中　③継続検討　④実施済　⑤調査指導対応　⑥現地対応　⑦実施不可

試験研究課題名　（①、②、④の場合）

対応の内容等

かいよう病は強風や大雨などの自然災害で発生が左右される病害です。しかし、現在収穫前日数が短くて有効な剤がマイコシールドしかなく、それについても収穫前の使用日数が 21 日であることから、従来よりもポイントを押えた防除をおこなう必要があります。

最近では福井園試で、ウメの果実への防除精度を上げるために、4月の基間防除に対して、果実横径が 10～15mm の時にマイコシールドを散布し、1回目の散布から 1 週間以降に強風雨などの自然災害が起きたら1～3日以内に追加的にマイコシールドを散布するという防除体系が提案されています（http:// info.pref. fukui.jp/nougyou/noushi/data/ fukyuu/h21/11.pdf　とhttp://info.pref.fukui.jp/ nougyou/fr/101/fr101_7.pdf）。

現在、農業技術センター所内のウメではかいよう病の発生が少なく調査結果が得られない状態です。また、現地の方が様々な条件が重なることもあり実際の散布効果がわかると思います。現地で福井園試の成果についての適応試験をおこなう場合、葉や果実の発病調査などに協力します。

解決予定年限	①1年以内　②2～3年以内　③4～5年以内　④5～10年以内
備　考	